

■（115）休みも歩けばネタに当たる？

寺の広間に高校生が並んだ。自分たちの活動について熱く語る。部活動などの合間に寺に顔を出し、自習する中学生の質問に答える活動を続けている。そんな彼ら、彼女らを地域で支えようと催された手作りパーティーの光景だ。

若者によるこのボランティア活動の第一号は、2年前の東日本大震災の避難所支援だった。中学を卒業したばかりの15歳のグループが、恩師とともに、近くのスタジアムにできた避難所に通った。新聞でも紹介された。避難所は役目を終えて2カ月後に閉鎖されたが、その後も自分らにできることを探した。その夏に始めたのが、後輩たちの「学びサポート」だった。

直前に経験した受験。先輩を見れば、第二、第三希望の高校に行き、ついに退学してしまう人もいる。「中学時代のちょっとしたつまずきが、その後の生き方を大きく変えてしまうのではないか」。後輩らに悲しい思いをさせないため、手助けできることはないか……。

宴の途中、元「問題児」が中学時代の反省を込めて自作の曲を恩師に披露した。休みの日に参加した地域の行事だったが、感動を広く伝えたくなった。これも記者のだいご味かも（山）